令和３年６月３日
蒲刈中学校だより
発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長　柿林　浩彦
第 12 号

授業でｉＰａｄを使っています
～色々な使い方をしています～

生徒の皆さんは，毎日，ｉＰａｄとモバイルルーターを普通教室はもちろん，理科室などの特別教室にも持ち運んで使用しています。調べたい内容をネットで検索したり，先生から送られた資料を見たりするなど，各教科に合わせての使い方が広がっています。きれいな写真や動画を全員が手元で見るだけでも大きな視覚的支援ですが，生徒一人一人が自分の考えをｉＰａｄ上に書いて，それを先生へ提出し，ｉＰａｄ上で全員が見て共有しています。このように他の生徒の考えを知ることによって，自分の考えが広がったり，深まったりすることにつながっていきます。

更に，より深い学びにするため，「ロイロノート・スクール」というシステムがｉＰａｄにインストールされています。この「ロイロノート・スクール」は，授業中にインターネットを通して生徒同士が情報共有をしながら学習を行うためのシステムです。一人一人の生徒がｉＰａｄを持ち，先生から示された課題に個人やグループで取り組み，その結果を提出します。提出された課題は画面上で共有し，全員で学び合うことができます。ちなみに，これらの作業はインターネット上の企業のサーバーで行っているため，「ロイロノート・スクール」を活用して，例えば，「ロイロノート・スクール」の「資料箱」に学校が保存している合同運動会の写真や動画を自宅で見ることができるようにしています。

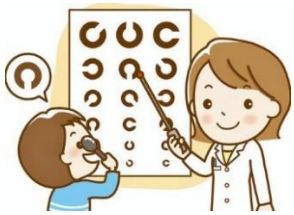
また，「ロイロノート・スクール」には，自分の考えをつくり出すことを助ける「シンキングツール（思考ツール）」がたくさんあります。「比較する」「分類する」「関係付ける」など，考えるときのさまざまなパターンが図で示されており，自分の考えをスムーズにつくり出すことの手助けをします。

社会科の授業では，Ｙチャートという「シンキングツール」を使うなど先進的な取組に挑戦し，生徒の学びを深めています。次の写真は６月２日の３・４時間目の様子ですが，ｉＰａｄを使っている場面がとても多く見られました。

「ＶＤＴ症候群」を知っていますか？
～正しい姿勢や環境で予防しましょう～

本校においては，積極的にｉＰａｄや大型モニターなどのＩＣＴ機器を使用しています。しかし，あくまでもＩＣＴ機器は授業を行うためのツールであり，使うことが目的ではありません。予測不可能な未来社会をたくましく生きていくため，生徒の皆さんに必要な資質・能力を確実に身に付けさせたいために活用していきます。

さて，「ＶＤＴ症候群」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？

ＶＤＴとは，「Visual Display Terminals」の略で，パソコンの画面などの画像表示装置を意味します。昨今，パソコンやスマートフォンの普及により，目や肩に症状を訴える方々が増加しています。これは，ＶＤＴ（画面表示装置）を使ったＶＤＴ作業によって心身に負担が生じ，「ＶＤＴ症候群」を発症していると考えられます。多い症状としては，①眼症状（眼精疲労・ドライアイなど），②筋骨格系症状（こり・腰痛など），③精神症状（イライラ・不眠など）が見られますが，ＶＤＴ作業そのものは作業環境を整えて正しく行えば健康障害を起こすものではないそうです。本校の授業中では，連続作業が長時間にならないようにしたり，作業中に適度の休止時間を設けたりします。また，正しい姿勢や環境は予防に大切ですから，ご家庭においても気を付けてください。よろしくお願いいたします。

小中学生の近視の現状を把握するため，文部科学省では初の大規模実態調査（対象は 9,000 人）を実施することとなりました。小中学校ではパソコンやタブレットといったデジタル端末を活用した授業が本格化するため，文部科学省は分析結果を視力保護の対策に生かすそうです。2019 年度学校保健統計調査では，裸眼視力が 1.0 未満だった中学生は過去最多の 57.47%でしたが，
本校は今年度約 24%でした。全国平均よりかなり良い結果でしたが，
気になる場合は通院されることをお勧めします。「外遊びが減り遠くを見ることが少なくなったことも近視の原因の１つと考えられる」というニュースなどが報道されていますが，家庭でもできる予防を行うことが大切だと思います。